

中野香織
「ファッション歳時記」

114

ファッションゲームを
無意味にした上院議員
ファッションでチャンスをつかんだ桂冠詩人



第46代アメリカ合衆国の大統領就任式は、見応えがありましたね。

新大統領のジョー・バイデンは、アメリカを代表するブランド、ラルフローレンを着用しました。初の「職業をもつファーストレディ」となるジル・バイデンは、新進女性デザイナーのブランド「マルカリアン」のブルーのコートアンサンブル。初の女性副大統領となるカマラ・ハリスは、黒人の若手デザイナー、クリストファー・ジョン・ロジャーズによる紫のコートアンサンブルに黒手袋、黒マスク。国歌を熱唱したレ

ディガガは、スキヤパレリの大胆な衣裳。胸元には平和の象徴、鳩をモチーフにしたブローチが光ります。

政治家や著名人が、伝統的であれ新進であれ高価なブランドで華やかさを競うなか、ひとり、異色ないでたちで光っていた男性がいました。大衆路線の「バートン」の深緑のジャケットを着て茶封筒を小脇に抱えるその方は、バーニー・サンダース上院議員。手には分厚い手編みのミトン。格差是正や教育支援制度の充実を訴え続ける79歳のサンダースは、若い

世代に絶大な人気を誇るのですが、郵便局に行くおじいちゃん風のこの日の装いも多くの人を魅了しました。インターネットには彼の姿をコラージュした、おもしろ画像があふれました。ミトンは教師がエコ素材を使って作りサンダースにプレゼントしたものと判明すると、人気はさらに過熱。サンダースはこれを受けて、自身の写真をプリントしたスウェットシャツを45ドルで販売しました。収益は慈善団体に寄付されるそうです。

はからずも新大統領をさしおいて就任式一番のスターとなってしまったサンダースですが、なぜこれほどの熱狂を生んだのでしょうか？

なんといつても、どのブランドを選ぶかということが政治的なメッセージになっていったワシントンのファッションゲームを、あつさり無意味にしてしまったから。パンデミック下にあつて貧富の差は拡大し、着る服どころか住む場所、食事にも困る人がアメリカでは(他の国でも)増えていきます。ワシントンのファッションゲームは、分断をなくそうと表舞台で演説できる、格差の上層部のゲームにすぎないのです。格差の下層で苦闘する人々を忘れるなというメッセージを、彼らの代弁者サンダースが装いを通して伝えていたように思いました。もちろん、これまでの彼の一貫した

言動あればこそ、「場違い」な装いが痛快に見えたのですが。「ただ暖かくして座っていただけ」と飄々と流す態度も好感度を高めました。

もうひとり、就任式で光り輝くスターとなった女性がいきましたね。22歳の桂冠詩人、黒人のアマンダ・ゴーマンです。黄色いコートを着ていたのは、ジル・バイデンが2017年の黄色い服を着たゴーマンのパフォーマンス映像を好もしく思つて抜擢してくれたから。服によって記憶されるところというのは、かくも大きなチャンスにつながるのです。彼女が朗誦した詩の一節をいささか強引に引用するならば、「光はいつもそこにある。私たちがそれを見る勇気があれば。私たちに光になる勇気があれば」。言葉で、装いで、光となる勇気を見せてくれた二人に、喝采を送らずにはいられません。



なかの かおり

1962年生まれ、富山市出身。服飾史家として研究・講演・執筆をおこなうほか、昭和女子大学客員教授、企業の顧問を務める。株式会社Kaori Nakano代表取締役。東京大学大学院修了。英国ケンブリッジ大学客員研究員、明治大学特任教授などを務めた。著書に、「「イノベーター」で読むアパレル全史」(日本実業出版社)、「ロイヤルスタイル 英国王室ファッション史」(吉川弘文館)ほか多数。